



県指定天然記念物

東平寺のシイノキ樹叢^{じゅうそう}

溪谷を渡る風に木々の緑がそよぐ
この季節、JR名松線の比津駅に降



り立つと、雲出川の水のきらめきが
一層まぶしく目に飛び込んでくる。

駅から東に向けて多気地域へ抜ける
比津峠への道を300メートルほど
進むと、左手の山の中腹にある東平
寺の境内に、大きく枝葉を伸ばした
シイノキの巨木が目に入る。

県の天然記念物に指定されている
これらの木々は「スダジイ」と呼ば
れる種類のシイノキで、新潟県以南
の列島に広く分布する、日本の暖帯
性常緑広葉樹林を代表する種類の樹
木である。東平寺の境内には、幹周
り4～6メートル、樹高10メートル
を越える9本のシイノキが、大小
の石仏や五輪塔を覆うように並んで
いる。6月には、杉や竹林に混じり、
遠くからでも分かる薄黄色の花を一
面に咲かせ、秋には大きな実（ドン
グリ）を付ける。ドングリは昔から
貴重な栄養源で、人間だけでなく森
に生きる多くの動物たちの貴重な食
料であった。

スダジイの森林は、かつては美杉
町川上付近まで雲出川沿いに広く分
布していたといわれるが、現在は植
林や耕地となり、居住地化も進んだ
影響で、この地域でも自然のままの
状態で残っている場所はほとんどな
く、この樹叢が当時の自然の植生を
知るうえで貴重な資料となっている。

木々の緑が一層濃くなるこれから
の季節、太古の自然を感じながら木
陰に涼を求めているかがであろう。

（「広報津」平成19年7月1日号）



大きく枝葉を伸ばすスダジイの木々